

平成28年 千葉県鉱工業指数年報の概況 (平成22年基準)

短期経済観測の資料とするため、毎月「千葉県鉱工業指数月報」を発行し、鉱工業の生産・出荷・在庫・在庫率指数を公表しております。このたび、年間補正及び季節指数の改定を行った上で、平成28年の1年間の動向を年報として公表しましたので紹介します。

統計課 工業班
電話 043-223-2227

概況

— 生産・出荷・在庫は低下，在庫率は上昇 —

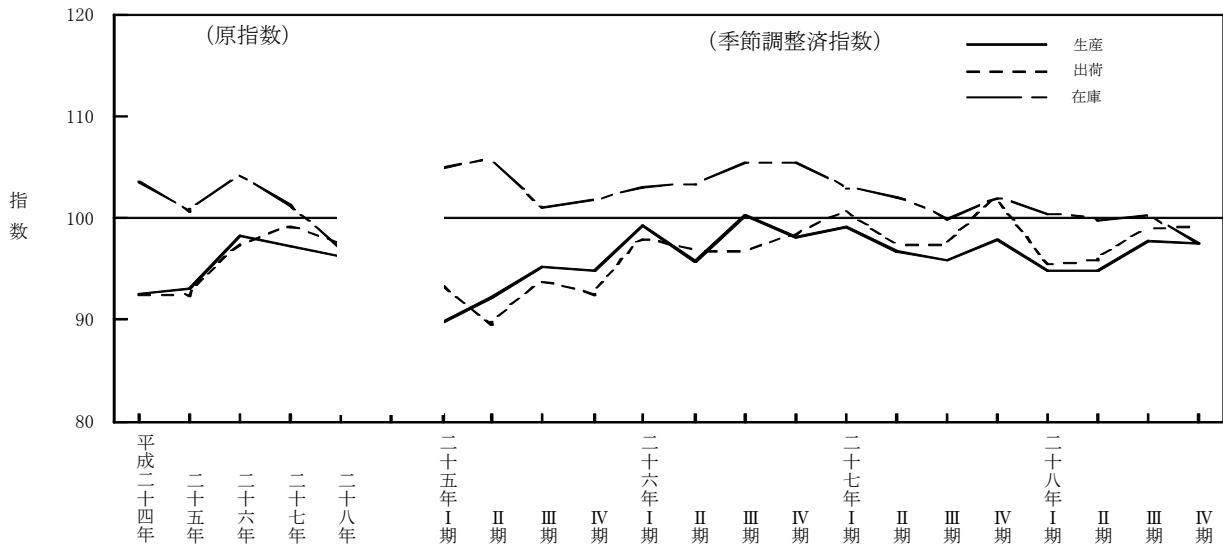
平成28年の千葉県鉱工業指数をみると、生産指数は、96.2で前年比△1.1%と2年連続の低下、出荷指数は、97.4で同△1.8%と3年ぶりの低下、在庫指数は、97.0で同△4.2%と2年連続の低下、在庫率指数は、141.9で同10.1%と3年連続の上昇となりました。

平成28年を四半期別にみると、生産指数は、Ⅰ期・Ⅳ期が低下、Ⅱ期が横ばい、Ⅲ期が上昇となりました。出荷指数は、Ⅰ期が低下、Ⅱ期からⅣ期が上昇となりました。在庫指数は、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅳ期が低下、Ⅲ期が上昇となりました。在庫率指数は、Ⅰ期が低下、Ⅱ期からⅣ期が上昇となりました。

平成28年の生産と在庫の関係を在庫局面でみると、Ⅰ期・Ⅱ期は「在庫調整局面」に位置し、Ⅲ期・Ⅳ期は「在庫積み増し局面」に位置しました。

(第1図・第2図・第1表参照)

第1図 千葉県鉱工業指数の推移 (平成22年=100.0)

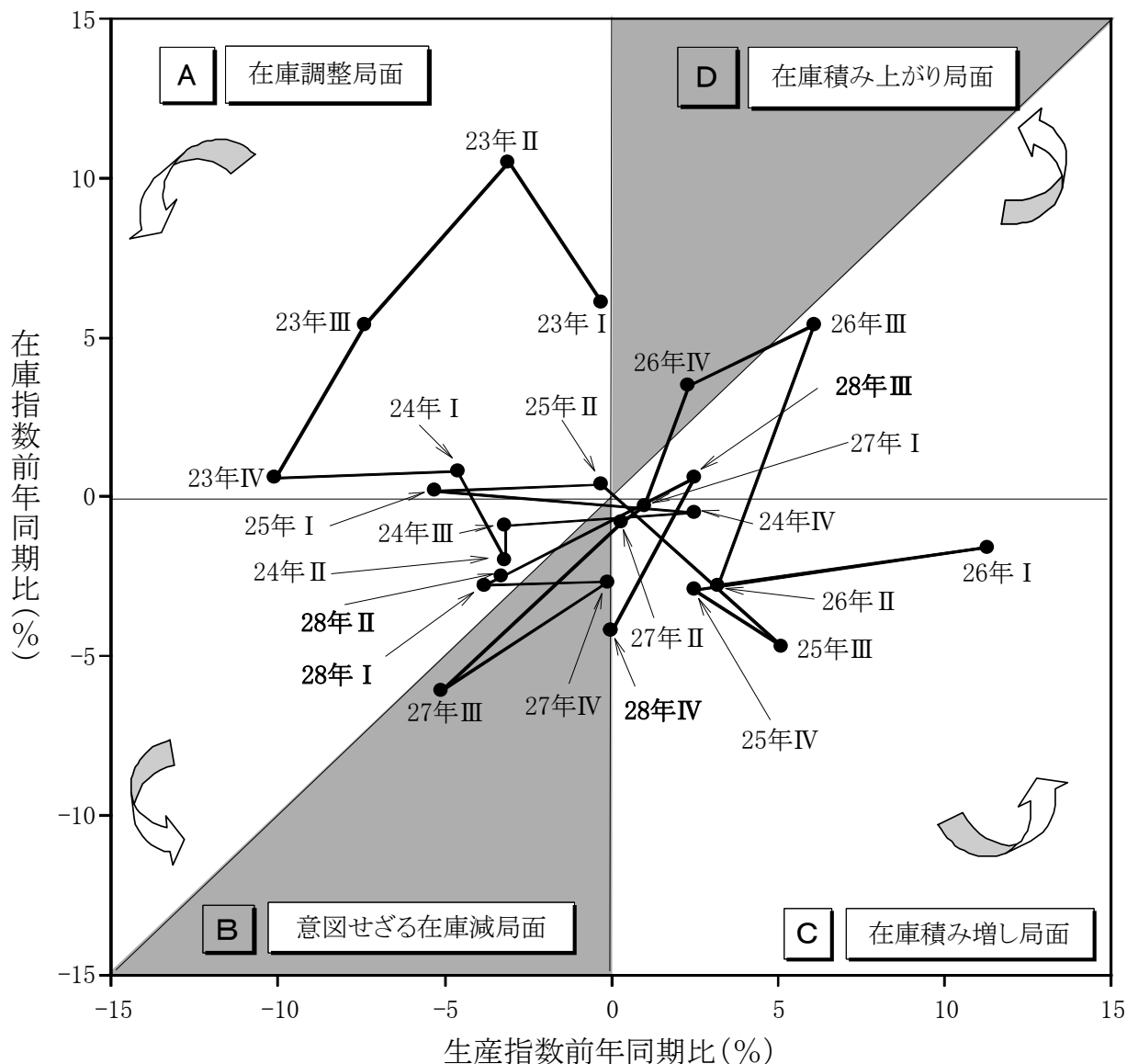


第1表 千葉県鉱工業指数及び前年比・前期比増減率

指数	年・期	24年	25年	26年	27年	28年	28年			
							Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期
							(1~3月)	(4~6月)	(7~9月)	(10~12月)
生産指数		92.6	93.1	98.3	97.3	96.2	94.9	94.9	97.7	97.5
前年比・前期比(%)		△2.2	0.5	5.6	△1.0	△1.1	△3.1	0.0	3.0	△0.2
出荷指数		92.5	92.3	97.4	99.2	97.4	95.5	95.8	99.0	99.3
前年比・前期比(%)		△1.4	△0.2	5.5	1.8	△1.8	△6.3	0.3	3.3	0.3
在庫指数		103.6	100.6	104.1	101.3	97.0	100.4	99.8	100.2	97.5
前年比・前期比(%)		△0.5	△2.9	3.5	△2.7	△4.2	△1.5	△0.6	0.4	△2.7
在庫率指数		118.0	112.3	118.1	128.9	141.9	130.6	141.3	142.8	152.8
前年比・前期比(%)		△0.6	△4.8	5.2	9.1	10.1	△2.2	8.2	1.1	7.0

※暦年指数値は原指数、四半期指数値は季節調整済指数

第2図 生産・在庫の関係と在庫局面(在庫循環図)



各在庫局面の説明

- A** 「在庫調整局面」 ……在庫過剰のため、生産を抑えて在庫を調整する。(景気後退期)
- B** 「意図せざる在庫減局面」 ……需要が回復し始めるが、生産は停滞しており、在庫が減少する。
(景気拡大初期)
- C** 「在庫積み増し局面」 ……需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。(景気拡大期)
- D** 「在庫積み上がり局面」 ……供給が需要より多くなると、在庫過剰になり在庫の積み上がりが起きる。(景気後退初期)

(1) 生産の動向

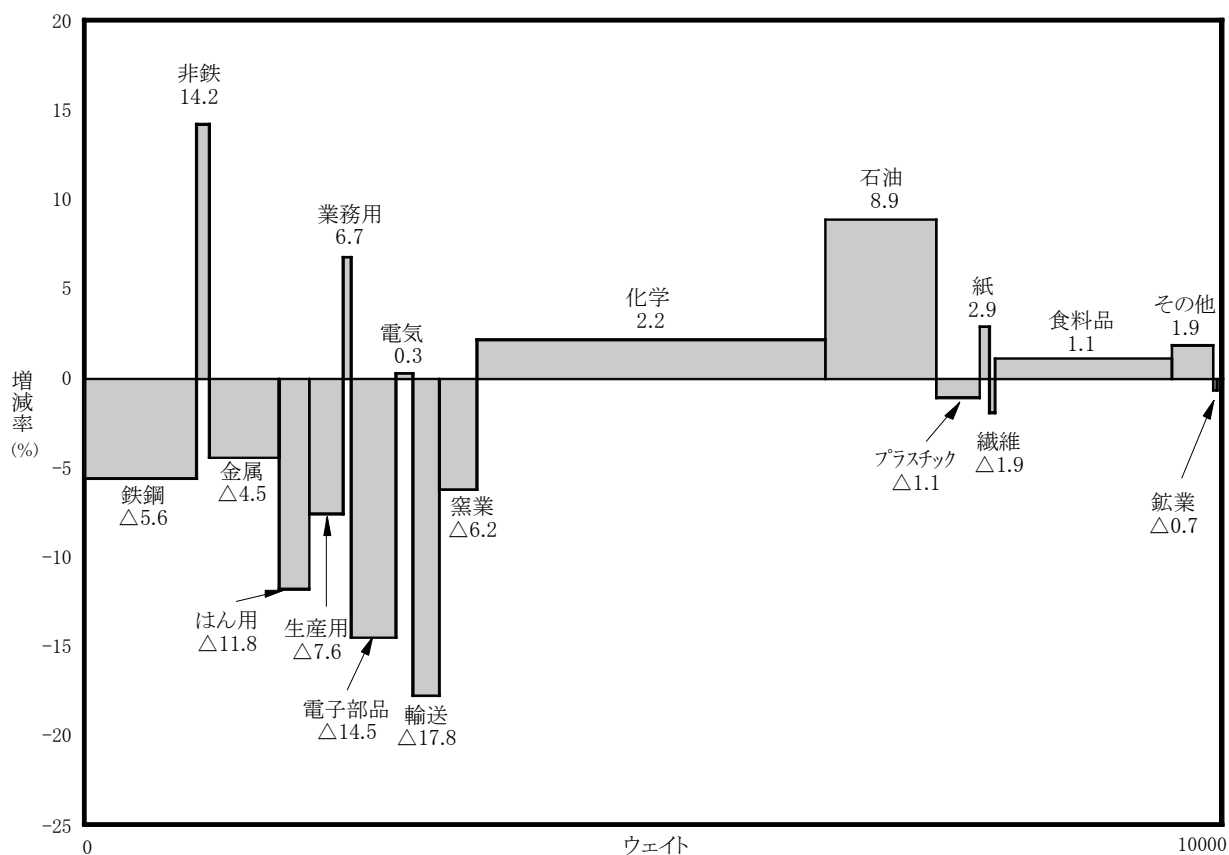
— 8業種が上昇, 10業種が低下 —

平成28年の生産指数は、96.2で前年比 $\Delta 1.1\%$ と2年連続の低下となりました。

業種別にみると、非鉄金属工業（前年比14.2%）、石油・石炭製品工業（同8.9%）、業務用機械工業（同6.7%）等8業種が上昇し、輸送機械工業（同 $\Delta 17.8\%$ ）、電子部品・デバイス工業（同 $\Delta 14.5\%$ ）、はん用機械工業（同 $\Delta 11.8\%$ ）等10業種が低下しました。

（第3図参照）

第3図 業種別生産指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比，縦軸は各業種の生産指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は，各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は，各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は，次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業
 [電気]…電気・情報通信機械工業 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業
 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業
 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

(2) 出荷の動向

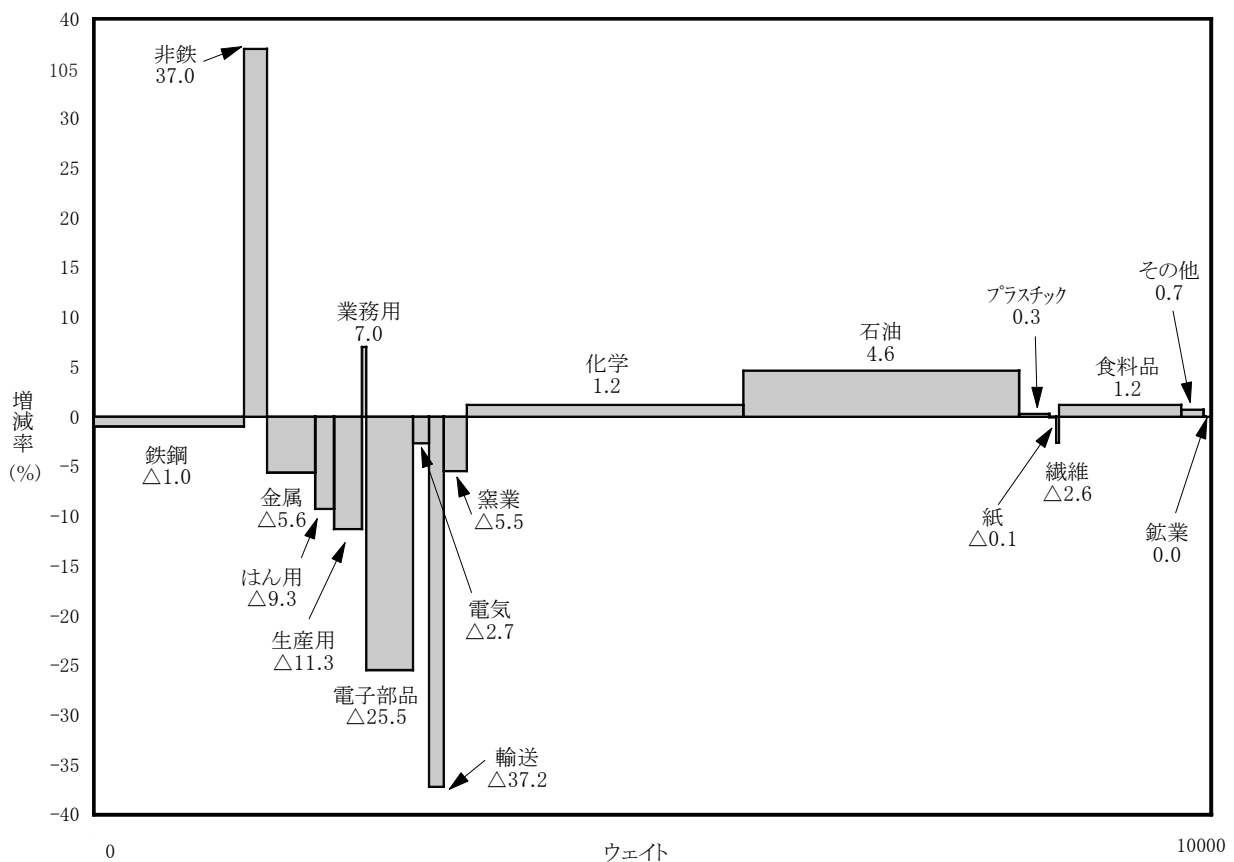
— 7業種が上昇, 10業種が低下 —

平成28年の出荷指数は、97.4で前年比 $\Delta 1.8\%$ と3年ぶりの低下となりました。

業種別にみると、非鉄金属工業（前年比37.0%）、業務用機械工業（同7.0%）、石油・石炭製品工業（同4.6%）等7業種が上昇し、輸送機械工業（同 $\Delta 37.2\%$ ）、電子部品・デバイス工業（同 $\Delta 25.5\%$ ）、生産用機械工業（同 $\Delta 11.3\%$ ）等10業種が低下しました。

（第4図参照）

第4図 業種別出荷指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比，縦軸は各業種の出荷指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は，各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は，各業種の大きさが指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は，次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業
 [電気]…電気・情報通信機械工業 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業
 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業
 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

(3) 在庫の動向

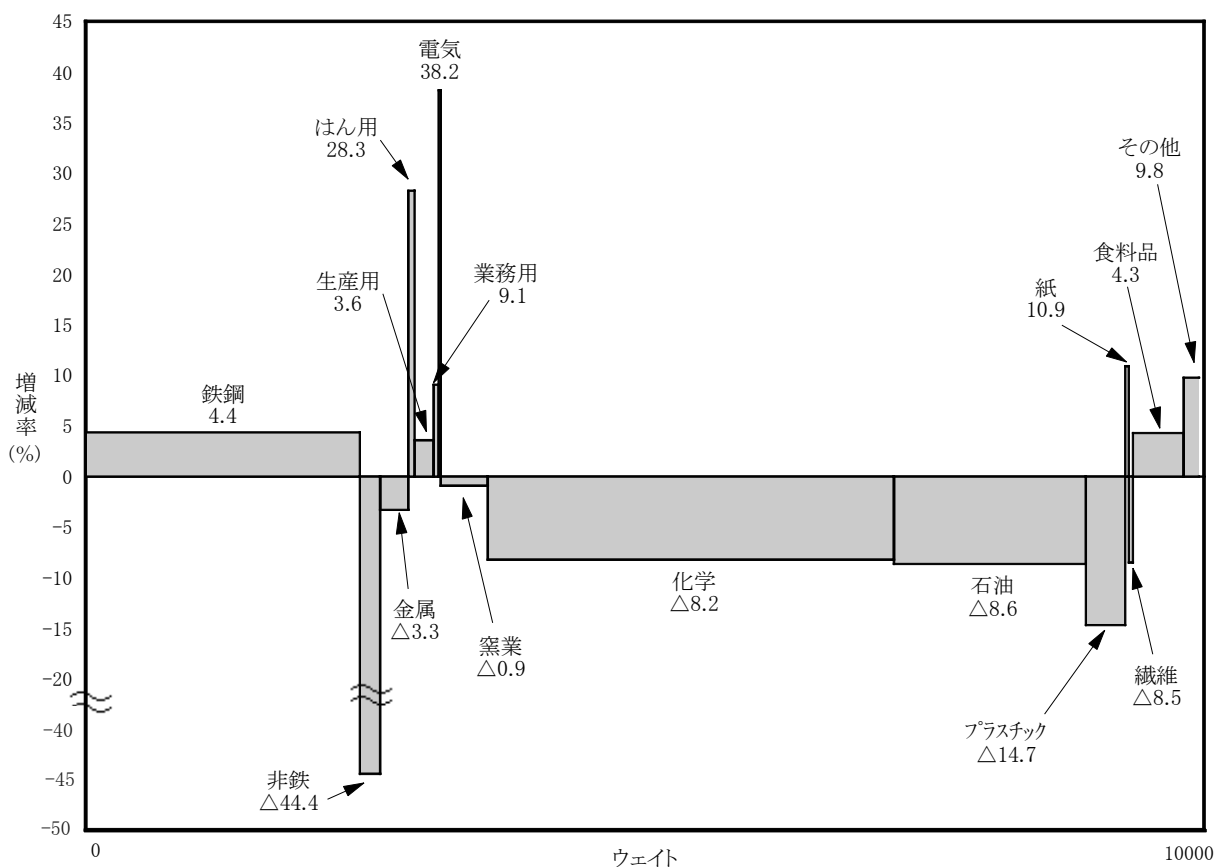
— 8業種が上昇, 7業種が低下 —

平成28年の在庫指数は、97.0で前年比△4.2%と2年連続の低下となりました。

業種別にみると、電気・情報通信機械工業（前年比38.2%）、はん用機械工業（同28.3%）、紙・紙加工品工業（同10.9%）等8業種が上昇し、非鉄金属工業（同△44.4%）、プラスチック製品工業（同△14.7%）、石油・石炭製品工業（同△8.6%）等7業種が低下しました。

（第5図参照）

第5図 業種別在庫指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の在庫指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（■部分）は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電気]…電気・情報通信機械工業
 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業
 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業
 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

利 用 上 の 注 意

1 基準時

平成22年（2010年）を基準年としています。

指数値は、平成22年＝100.0とした数量指数で表示し、ウェイトは平成22年の産業構造によって算出しています。

2 用語の表示

「鉱工業生産指数」，「鉱工業生産者出荷指数」，「鉱工業生産者製品在庫指数」，「鉱工業生産者製品在庫率指数」をそれぞれ「生産指数」，「出荷指数」，「在庫指数」，「在庫率指数」と略記しています。

また，「1～3月期」，「4～6月期」，「7～9月期」，「10～12月期」をそれぞれ「Ⅰ期」，「Ⅱ期」，「Ⅲ期」，「Ⅳ期」と略記しています。

3 指数値等の表示方法

(1) 指数値は、暦年別及び四半期別に算出し、表示しています。

(2) 暦年指数値及び前年比は、原指数によって算出し、表示しています。

(暦年指数値は、1～12月各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、年末の指数値です。)

(3) 四半期指数値及び前期比は、季節調整済指数によって算出し、表示しています。

(四半期指数値は、期内各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、期末の指数値です。)

(4) 各数値の掲載単位未満は、すべて四捨五入しています。